

大学コンソーシアム岡山 第15回代表者会議 議事要旨

1. 日 時：平成25年3月11日（月）14時00分～15時30分
2. 場 所：岡山理科大学 50周年記念館 3階 会議室
3. 出席者：8人／18人（その他、代理、随員及び陪席者数 24人）末頁のとおり

（議 事）

会議に先だち、波田会長（岡山理科大学学長）から挨拶があった。東日本大震災が発生した日に伴い、議事中に黙祷を1分間行いたい旨のお願いがあった。

（報告事項）

3. その他

（4）岡山県警察「犯罪被害者等支援」

堤氏（岡山県警察本部 犯罪被害者支援室担当課長補佐）より、県警察の取り組み、犯罪被害者の実態と支援の施策、警察官募集、年間20名程度の大学生によるフォーラム会場設営等ボランティア活動等についての案内があった。各大学においては、大学生に説明いただき、県警察の取り組みについて理解を深めてほしい。

以上の岡山県警察の案内により、波田会長から大学コンソーシアム岡山と岡山県警察が有機的な関係を持ち連携していくことが重要であるとの発言があった。

波田会長から、本日井尻委員（岡山商科大学学長）が欠席のため大崎氏（岡山商科大学副学長）が代理出席、足羽憲治氏（岡山県副知事）が大学コンソーシアム岡山副会長に就任、伊原木隆太氏（岡山県知事）が大学コンソーシアム岡山顧問に就任した旨の紹介があった。

椿原委員（川崎医療福祉大学学長）から委員就任の挨拶があった。

続いて、波田会長から陪席者のご紹介がなされた。

波田会長から平成24年9月11日開催の第14回代表者会議の議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

1. 各事業部活動報告について

波田会長の指名により、木村運営委員長（岡山理科大学 学外連携推進室副室長）から以下の報告がなされた。

（1）大学教育事業部（単位互換委員会、対面・遠隔講義委員会）

資料4-1に基づき、大学教育事業部による平成24年度後期単位互換履修状況の説明があった。後期は全体で503名、年間を通じて642名の学生が受講した。

(2) 社会人教育事業部（社会人教育委員会）

資料4-2に基づき、社会人教育委員会による吉備創生カレッジ受講状況について説明があった。

(3) 産学官連携事業部（地域貢献委員会、就職支援委員会）

- ・資料4-3に基づき、地域貢献委員会による「日ようび子ども大学」実施における報告書及び「エコナイト」実施における報告書の内容に関する説明があった。
- ・就職支援委員会によるインターンシップ事業等について、別冊「平成24年度大学生インターンシップ実施報告書」に基づき報告があった。岡山県経営者協会から岡山県中小企業団体中央会（以下、中央会とする）に引き継がれ、中央会の尽力により適切に取り組まれている。WILに登録の大学が企業とマッチング行い、平成24年度は成果のあるインターンシップ活動ができた。当初事業報告会を予定していたが、平成24年度は取りやめとなった。
- ・日ようび子ども大学について、澁谷地域貢献委員長（山陽学園大学 総合人間学部教授）から補足説明があった。来年度も引き続き同スタイルで日ようび子ども大学及びエコナイトを開催する。
- ・榎本就職支援副委員長（岡山理科大学 キャリアセンター部長）から補足説明があった。中央会が各学生にアンケートし、別冊「大学生が企業に求める魅力とは」を取りまとめた。就職支援委員会として、就職支援委員長と運営委員長が3月末に岡山県知事を訪問し、平成27年度以降のインターンシップ事業について相談に行く予定である。

波田会長から、以下のご意見があった。

- ・「日ようび子ども大学」と「エコナイト」には大学コンソーシアム岡山の全大学から是非出展いただきたい。
- ・岡山県から開始したインターンシップの取り組みは、元々岡山県が始めたものであり、岡山県の協力を要請したい。

2. 出張報告について

木村運営委員長から以下の報告がなされた。

- ・資料5に基づき、(社)岡山経済同友会が中心に行った東日本大震災復興支援活動について報告がなされた。
- ・著作権セミナーについて、VOD型コンテンツ作成において著作権法の情報を取得するために今後も関連のセミナーに参加し、コンテンツ作成は注意を払う。
- ・NPO法人CCC-TIESシンポジウム参加について報告がなされた。奈良県帝塚山大学の先生が戦略GP等の補助金を利用してMoodleシステムによる遠隔教育を構築してきた。大学コンソーシアム岡山のVOD型コンテンツ運用における

システムについて今後検討を図っていききたい。

原氏（岡山経済同友会代表幹事代理、教育問題委員長、大学コンソーシアム岡山運営副委員長）から、東日本大震災復興支援ボランティア活動について説明があった。山陽放送では平成24年9月に1時間の特別番組を放映し、学生の意見や表情を伝えた。来年度も本活動を実施したいので、各大学の参加をお願いしたい。

波田会長から、来年度ボランティア報告会を開催するので、可能な限り多大学から色々な視点で意見を出していただき、発展的なものにしていききたい。大学コンソーシアム岡山を通じて東日本大震災復興支援ボランティア活動の参加案内をするので宜しく願いしたい。

東日本大震災被災者に向けて14時46分に1分間の黙祷を行った。

3. その他

（1）岡山オルガノン実績報告書に対する質問書への回答

木村運営委員長から資料6-1に基づき、平成23年度大学改革推進等補助金（戦略）実績報告書確認事項について報告がなされた。波田会長から、補助金の使い道が厳密に審査され返却する大学があり申し訳ないが宜しくお願いしたいとの説明があった。

（2）ESDに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会設立

波田会長から資料6-2に基づき、ESDに関するユネスコ世界会議について説明があった。2014年に岡山県で世界会議の開催が誘致された。実施内容についてまだ具体的な情報がないが、各大学のセクションで対応することになるかもしれないので宜しくお願いしたい。ESDに関する統一教材を大学コンソーシアム岡山で制作し、各大学に配給することが岡山県への協力になるのでは、との提案があった。

（3）（財）マルセンスポーツ・文化振興財団の助成事業の応募

木村運営委員長から資料6-3に基づき、平成25年度スポーツ・文化活動助成事業の申請について報告があった。大学コンソーシアム岡山の財政面上10万円の補助を提案した。採択されればエコナイトのイベントに活用したい。

（審議事項）

1. 平成24年度収支決算中間報告について

木村運営委員長から資料1に基づき、会費及び事業費の平成24年度事業会計収支計算書について説明があった。会費は、印刷製本費やホームページ管理費等節約することができた。当初、運転資金として会費から事業費に100万円を貸していたのを、今年度中に会費に返却する。事業費は、FD・SD事業やVOD撮影補助人件費等を節約することができた。残高については、来年度の運転資金として使用させていただきたい。

2. 平成25年度事業計画について

木村運営委員長から資料2に基づき、平成25年度事業計画について以下の説明があり原案通り承認された。

(1) 大学教育事業部の計画

- ・新規事業として、「障がい学生支援委員会（仮称）の設置」について運営委員会で了承された旨の説明があった。
- ・他大学学生対応におけるVOD型遠隔教育担当の先生への講師謝金の支給（案）について説明があった。謝金を受け取れない大学に対しては支給できないことになるかもしれない。今後も検討を継続していく。
- ・資料2-1に基づき、「双方向ライブ型遠隔講義にオムニバス科目を新設」について説明があった。履修生数に対する費用対効果について岡山商科大学大崎先生から提案があった旨の説明があった。各大学から提供されたオムニバス講義大学間で運用し、双方向ライブ型遠隔科目として配信することについて運営委員会で了承いただいた。来年度は対面科目もPRできるようにパンフレットに全科目を掲載した。

(2) 社会人教育事業部の計画

新規事業として、「吉備創生カレッジ」講座のVOD配信計画の検討開始について説明があった。

(3) 産学官連携事業部の計画

新規事業として、東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会の開催について、ボランティア活動の在り方について考える機会を設ける報告会を開催したい。

その他新規事業として、今年岡山理科大学からFD講演会の共同開催について提案があった。平成25年度はFD活動の継続として開催したい。

(4) 事務局からの提案

木村運営委員長から資料2-4に基づき、役員の交代について書類によって了承された旨の報告があった。

平成25年度事務局組織変更について、堂田氏（工学部教授、大学コンソーシアム岡山運営副委員長）から木村運営委員長を大学コンソーシアム岡山非常勤顧問として平成25年度から雇用する旨の説明があり、承認された。

波田学長から賃金はどこから支払うのか質問がなされ、堂田運営副委員長から大学コンソーシアムの会費から支出する旨の回答があった。

3. 平成25年度予算案について

木村運営委員長から資料3に基づき、会費と事業費の平成25年度予算案について説明があった。予算体制が赤字であるため、前期繰越金を使用している。切り詰めた執行運用を努力しているが、次年度も繰越金を使用せざるを得ないため平成26年度は厳しい財政状態となる。主な理由として、赤字予算であるので平成26年度は収入予算に対する抜本的な改革が必要である。

波田会長から、繰越金を多く持つことが良いことではないので新たな体制に向かって将来方向を検討する必要である、と意見があった。

岡山商科大学の大崎先生から資料2-1「3. 双方向ライブ型遠隔講義にオムニバス科目を新設」について補足説明があった。15大学が補助金で設備投資をしているので、全学生数35,000人の1%の350名の受講者を目標として協力いただきたい。各特色を活かした共通の英語教育、医学、社会科学等科目を検討いただきたい。

波田会長から、15大学から1名ずつ講師が出てESDに関する科目を提供してもよいのではないか、と意見があった。

(その他)

1. 岡山県大学長懇談会としての議題について

波田会長から、事前に各大学より議題の提出が無かった旨の報告があった。

2. 次回の会議について

波田会長から、本日の会議において審議いただく事項は全て承認いただいたため、次回は平成25年9月頃開催することが説明された。

最後に、波田会長から以下の委員交代について説明があった。

- ・三宮委員（岡山県立大学学長）から退任の挨拶があった。9年間岡山県立大学の学長を務めた。
- ・赤木委員（山陽学園大学学長）から退任の挨拶があった。6年間山陽学園大学の学長を務めた。次年度から岡山医療技術専門学校の校長を務める。
- ・堂田氏から運営委員長就任の挨拶があった。